社会科学習指導案

日　時　令和８年２月 18 日（水）
第５校時　13:30～14:15
学校名
対　象　第４学年　組　名
会　場　３階　４年　組教室
授業者

１　小単元名

江戸の文化を伝える浅草　（副教材　『わたしたちの東京都』明治図書出版）

２　小単元の目標

伝統的な文化を保護・活用している浅草について、その位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、文章などにまとめ、浅草の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、浅草では歴史ある建造物やまち並み、祭りなどの地域の伝統的な文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

３　小単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　浅草の位置や人々の活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、浅草の様子を理解している。 ②　調べたことを文章などにまとめ、浅草では地域の伝統文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	①　浅草の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、浅草の地域の様子について考え、表現している。 ②　浅草の人々の活動や産業と地域の発展を関連付けたり、自分たち住む地域と比較したりして、浅草の特色を考え、適切に表現している。	①　浅草の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本小単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）　第２章　第２節　社会　第４学年に基づいて設定した。

２　内容 ⑸　県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を

身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ)　県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

(ｲ)　地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ)　特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

（内容の取扱い）

⑷　内容の⑸については、次のとおり取り扱うものとする。

ア　県内の特色ある地域が大まかに分かるようにするとともに、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げること。その際、地域の資源を保護・活用している地域については、自然環境、伝統的な文化のいずれかを選択して取り上げること。

本小単元は、主として「地理的環境と人々の生活」に区分されるものである。本小単元では、「県内の特色ある地域の様子」の中の「地域の資源を保護・活用している地域」を取り上げる。事例地は、「内容の取扱い」にある「伝統的な文化を保護・活用している地域」として台東区・浅草を取り上げる。ここでは、内容⑷の文化財や行事を保護・継承している人々の努力を取り上げた「県内の伝統や文化」の学習との違いに配慮し、人々の協力により、昔からの浅草の伝統を守り生かしながらも、更なる産業の発展に努めていることに焦点を当てながら学習を進めていく。

⑵　児童観

本学級では、児童自らが主体的に学習できるよう指導してきた。「つかむ」段階では、疑問から学習問題を考えたり、学習問題を基に学習計画を立てたりすることができる児童が増えてきた。しかし、社会的事象に興味・関心をもって、調べたいこと、知りたいことを意欲的に追究しようとする児童は少ない。「しらべる」段階では、各種資料を読み取り、気付きや考えを書くことができる児童が増えた。「まとめる」段階では、これまで学習したことを整理した上で学習問題に対する考えを書けるようになってきた。しかし、資料を使って一生懸命調べているものの、調べたことを基に考える児童は少ない。また、調べ学習を通して分かったことを積み重ね、学習問題に対する自分の考えを書くことに対して苦手意識を感じている児童もいる。

そこで、「つかむ」段階では、児童の興味・関心を高め、疑問を引き出すための資料提示を行う。「しらべる」段階では、各種資料を読み取り、補助発問をした上で、そこからどのようなことが分かるのかを考える時間を設ける。自分とは異なった考えや別の視点から見た考えを共有する活動を通して、社会的事象の意味や特色を捉えることができるようにする。「まとめる」段階では、４月から使用している「まとめ貯金シート」を活用する。「まとめ貯金シート」とは、見開き１枚のワークシートに、各時間で調べて分かったことを自分の言葉で書き溜めていくものである。毎時間記録していくことで、これまでのまとめを１枚のシートに整理することで、単元全体を把握しやすくなる。また、思考ツールなどを用いて、人々の協力関係や思いについて考えることで、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解し、学習問題に対する自分の考えを書くことができるようにする。

⑶　教材観

台東区浅草は、日本屈指の観光地であり国内外から多くの人々が訪れる。浅草寺を中心とした歴史的建造物やまち並み、昔から受け継がれる数々の祭りや年中行事、人情味あふれる下町情緒は、魅力的な観光資源となっている。本学級の児童は社会科見学として浅草を見学し、歴史的建造物やまち並み、多くの観光客が来ていることを知った。そこで、「つかむ」段階では、約 80 年前と約 60 年前、現在の仲見世の写真を提示する。約 80 年前の仲見世は、現在と同じように賑わいがあるが、約 60 年前の仲見世が賑わいを失っている写真から児童の興味・関心を引き出す。児童が浅草のまち並みや年中行事、現在の賑わいの様子や、台東区を訪れる観光客数の変化から、そこで活動する人々に着目をし、その働きや協力関係について、主体的に追究できるようにする。「しらべる」段階では、浅草の歴史的建造物やまち並み、祭りなどの伝統的な文化を受け継ぎながら、地域の発展に尽力する人々の取組や思いについて調べることができるようにする。浅草の年間行事が分かるパンフレットや教師が撮影した資料などを活用し、商店街や区役所、ボランティアの人など立場の違う人々の協力によってまちづくりがなされてきたことに着目する。「まとめる」段階では、「まとめ貯金シート」を用いて、人々の協力関係や働く人々の思いに気付き、浅草では特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを着目し、それを基に学習問題に対する自分の考えをまとめることができるようにする。

５　年間指導計画における位置付け

<table>
<tr><th>学期</th><th>単元名</th><th>小単元名</th><th>時数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">１学期</td><td>わたしたちの東京都の様子</td><td>都道府県を調べよう～東京都の様子～</td><td>10 時間</td></tr>
<tr><td rowspan="2">住みよいくらしをつくる</td><td>水はどこから</td><td>11 時間</td></tr>
<tr><td rowspan="3">２学期</td><td>ごみの処理と再利用</td><td>10 時間</td></tr>
<tr><td>自然災害から人々を守る</td><td>水害からくらしを守る</td><td>12 時間</td></tr>
<tr><td rowspan="2">東京都の伝統や文化、
東京都の発展に尽くした人々</td><td>受けつがれる祭り
～武蔵府中くらやみ祭～</td><td>10 時間</td></tr>
<tr><td>とどけよう命の水
～玉川兄弟と玉川上水の開発～</td><td>10 時間</td></tr>
<tr><td rowspan="3">３学期</td><td rowspan="3">東京都の特色ある地域の様子</td><td>染め物のさかんな新宿区</td><td>９時間</td></tr>
<tr><td>世界とつながる大田区</td><td>11 時間</td></tr>
<tr><td>江戸の文化を伝える浅草（本小単元）</td><td>７時間</td></tr>
</table>

６　単元の指導計画と評価計画（全７時間）

学習過程	時	目標	○学習活動	◆評価規準（評価方法）・資料
つかむ	第１時	浅草の様子に関心をもち、その位置やまちの様子などを理解する。	○　浅草の写真から、気付いたことを発表する。 【問い】　浅草に多くの観光客が訪れるのは、どうしてだろう。 ○　浅草の位置を調べる。 ○　浅草の文化財や年中行事を調べ、分かったことを発表する。 ○　調べたことを基に、考えたことを話し合う。 ○　振り返りをする。	・　雷門、仲見世の写真 ・　東京都の地図 ・　浅草の年間行事カレンダー ・　浅草の文化財の写真 ◆　ア－①（ノート、発言）
	第２時（本時）	昔と今の浅草を比べ、まちの賑わいの変化から学習問題をつくり、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	○　めあてをつかむ。 学習問題をつくり学習計画を立てよう。 ○　社会科見学で浅草を見学した時の様子について発表する。 ○　約 80 年前、約 60 年前、現在の仲見世の写真を比較し、考えたことを話し合う。 ○　疑問について発表し合い、学習問題をつくる。 【学習問題】　浅草の賑わいを取り戻すために、だれがどのようなことをしたのでしょう。 ○　学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。 ○　振り返りをする。	・　約 80 年前、約 60 年前と現在の仲見世の写真 ・　仲見世とテーマパークの観光客数のグラフ ◆　イ－①（ノート、観察） ◆　ウ-①（ノート、観察）
しらべる	第３時	賑わいを取り戻すための新しい取組について調べ、その様子を理解する。	【問い】　浅草のまちの人々は、どのような新しい取組をしたのだろう。 ○　浅草の人々が新しく取り入れた取組について調べる。 ○　新しい取組を取り入れた浅草のまちの人の気持ちを考える。 ○　振り返りをする。	・　浅草サンバカーニバルの写真 ・　ジャズフェスティバルの写真 ・　浅草おかみさん会の話 ◆　ア－①（ノート、観察）

	第４時	江戸の文化や伝統を生かしたまちづくりの取組を調べ、その様子を理解する。	【問い】　浅草のまちの人々は、江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしたのだろう。 ○　昔と今の伝法院通りを比較し、気付きや疑問を話し合う。 ○　浅草のまちの人々が、伝統を生かしながら魅力的なまちに改良していった様子を調べる。 ○　振り返りをする。	・　今と昔の伝法院通りの写真 ・　伝法院通りの他の整備された通りの写真 ・　浅草の地図 ◆　ア－①（ノート、観察）
	第５時	浅草の人々は、どのように文化財や伝統行事を守ってきたのかを調べ、その様子を理解する。	【問い】　浅草のまちの人々は、文化財や伝統行事をどのように守ってきたのだろう。 ○　浅草の文化財や伝統行事の歴史を調べる。 ○　振り返りをする。	・　三社祭・隅田川花火大会の写真や映像 ◆　ア－①（ノート、観察）
	第６時	区役所や区の人々は、どのような取組をしているのかを調べ、その様子を理解する。	【問い】　浅草では、どのように人々が協力して、まちづくりをしているのだろう。 ○　区役所や地域のボランティアの人々の活動の様子を調べる。 ○　浅草のまちづくりのために、地域の人々はどのような活動をしているのか調べる。 ○　振り返りをする。	・　浅草文化観光センターの写真 ・　区役所の観光課の人の話 ◆　ア－①（ノート、観察）
まとめる	第７時	調べたことについてまとめ、学習問題について自分の考えを表現することを通して、台東区浅草では人々が協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解する。	○　めあてをつかむ。 学習問題に対する自分の考えを書こう。 ○　どのような工夫がされていたのかを「まとめ貯金シート」にまとめる。 ○　学習問題に対する自分の考えをまとめ、友達と共有する。 ○　友達の考えを参考にして、もう一度自分の考えを見直す。 ○　振り返りをする。	・　まとめ貯金シート ◆　イ－②（まとめ貯金シート） ◆　ア－②（まとめ貯金シート）

７　指導に当たって

令和６年度東京教師道場社会科小学校２班テーマ「自ら問いをもち、調べたことを基に考え、問題解決をする児童の育成」に迫るために、次のような手だてを講じる。

⑴　興味・関心を高め、児童から疑問を引き出すための工夫

○　児童から驚きや疑問を引き出す資料提示

本小単元の導入では、社会科見学で浅草に訪れた際の写真や動画を活用し、浅草には歴史的建造物や多くの人々が観光に来ていたことを想起する。また、現在の浅草だけでなく、約 80 年前と約 60 年前の仲見世の写真を読み取る活動を取り入れる。江戸や大正という古くから浅草が栄えていたことや約 60 年前の仲見世に賑わいが消えた様子に着目することで「一度衰退した浅草にどのようにして多くの人が集まるようになったのだろう。」という疑問を引き出すようにする。また、浅草と児童に馴染みのある人気テーマパークの年間観光客数を比較することで、多くの人々が浅草に観光に来ていることを実感できるようにする。さらに予想を基に学習計画を立て、児童が主体的に追究できるようにする。

⑵　調べたことを基に考えるための工夫

○　教師の発問による思考の促進

児童が調べたことを基に自分の考えを深め、分かったことを自分の言葉でまとめることができるように、商店街や地域の人々の取組の意義や目的について考えることを促す発問をする。児童が社会的事象の特色や意味などについて考えることで、目標の達成に近付くようにする。そのため、調べる活動では、後半に以下のような発問をする。

「浅草おかみさん会の人たちは、どのような思いでたくさんの新しい取組を行ってきたのだろう。」

「なぜ江戸の文化や伝統を生かしたまちづくりをしているのだろう。」

「文化財も行事も一時はなくなったのに、どのようにして今も続けているのだろう。」

「浅草のまちづくりのために、地域の人々はどのような活動をしているのだろう。」

これらの発問をすることで、毎時間調べたことを基にして児童が思考できるようにする。

⑶　問題を解決するための工夫

○　単元のまとめの時間の設定と毎時間分かったことの蓄積・関連付け

これまでの手だてを踏まえ、毎時間の学習のまとめを「まとめ貯金シート」という１枚のシートに蓄積していく活動を取り入れる。「まとめ貯金シート」は、調べて分かったことを自分の言葉でまとめ、毎時間記録していくことで、これまでのまとめが１枚のシートに整理でき、単元全体を把握しやすくなる。「まとめ貯金シート」から、各時間で分かったことを活用したり、比較・関連・総合して考えたりすることができ、学習問題に対する自分の考えを書く際の手掛かりになるようにする。本小単元では、「まとめ貯金シート」を用いて、調べてきた取組や工夫を整理し、学習してきたことのつながりを考えることで、人々の取組や工夫、思いについて捉え、学習問題に対する自分の考えを書くことができるようにする。

８　本時（全７時間中の第２時）

⑴　本時の目標

昔と今の浅草を比べ、まちの賑わいの変化から学習問題をつくり、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。

⑵　本時の展開

時間	○学習活動　　・主な児童の反応	□指導上の留意点・配慮事項	◆評価規準（方法）・資料
導入 ５分	○　めあてをつかむ。 学習問題をつくり、学習計画を立てよう。 ○　社会科見学で浅草を見学した時の様子について発表する。 ・　人がとても多かった。 ・　外国人も多くいた。	□　社会科見学で訪れた際の写真を提示し、浅草には多くの観光客が来ていたことを想起できるようにする。	
展開 35 分	○　約 80 年前、約 60 年前、現在の仲見世の写真を比較し、気付いたことを話し合う。 ・　約 60 年前は人通りが少なく、寂しそうだ。 ・　約 80 年前や現在は大勢の人で賑わっている。 ・　同じ場所なのにどうして賑やかさが違うのだろう。 ○　浅草とテーマパークの年間観光客数を比較する。 ・　浅草に人が多く来ているね。 ・　こんなに人が多く来るなんて知らなかった。 ○　疑問について発表し合い、学習問題をつくる。 ・　どうして 60 年前に人が少なくなったのか気になります。 ・　どうして今はこんなにたくさんの人が来るようになったのか気になります。 【学習問題】　浅草の賑わいを取りもどすために、だれがどのようなことをしたのだろう。 ○　学習問題に対する自分の予想を考え、話し合う。 ・　新しい取組をしたと思います。 ・　前の時間で、浅草には多くの文化	□　三つの時代の資料を比較することで、時間の経過に着目し、問題意識を高める。 □　高度経済成長期に副都心である新宿・渋谷・池袋の街に賑わいが移ったことを説明し、どのように賑わいが戻ったのかという疑問を高める。 □　年間観光客数はＩＣＴを用いてグラフを示す。 □　予想が学習計画につながるように項目別に板書する。	・　約 80 年前、約 60 年前と現在の仲見世の写真 ・　浅草とテーマパークの年間観光客数のグラフ ◆　イ－①（ノート、観察） ◆　ウ－①（ノート、観察）

	財や年中行事があることを知ったので、それらを守っていると思います。 ・　昔からある建物を生かしたと思います。 ・　区役所やボランティアの方が頑張ったと思います。		
まとめ ５分	○　振り返りをする。	□　振り返りの視点を示す。	

(3)　板書計画

めあて　学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

約80年前の仲見世の写真

約60年前の仲見世の写真

現在の仲見世の写真

なぜ約 60 年前に人が少なくなったのか。
どうして今はこんなに沢山の人が来るようになったのか。

学習問題
　浅草のにぎわいを取りもどすために、だれがどのようなことをしたのだろう。

予想

浅草の人たちの協力
区役所やボランティアの人たちの協力

文化財や年中行事を守る

新しい取組
見所を増やす

昔を生かす
昔からある建物を生かす

振り返り

(4)　授業観察の視点

ア　三つの時代の仲見世の写真提示は、児童の疑問を引き出すのに有効だったか。

イ　資料は、児童が問いを見いだしたり予想したりするのに有効だったか。